

### 3. 福岡都市圏の幼稚園における乳歯う蝕罹患状況の経年的推移について（第2報）

○森田 知典（福岡予防歯科研究会）

緒言：演者らは、1975年より福岡市および北九州市近郊の幼稚園で、予防歯科活動を行なってきた。1975年より1983年までの9年間の乳歯う蝕罹患状況の推移については、1983年の第5回日本口腔衛生学会九州地方会で発表した。今回1984年より1988年までのデータを追加し、若干の検討を加えたので報告する。

方法：対象は、1975年から1988年までの、福岡市および北九州市近郊の幼稚園児延14,811名である。年令は、年少児を3才、年中児を4才、年長児を5才とした。検診は、各年度の5月から6月にかけて行ない、視診型により歯面別に行なった。各年令群に関して、う蝕罹患者率、def-t index、およびdef-s indexを求めた。

結果：前報において演者らは、乳歯う蝕罹患者率、def-t index、およびdef-s indexが、1975年より1979年までは著しい減少傾向を示していたが、1979年から1983年までは減少傾向が鈍化したことを報告した。今回の調査で、減少傾向の鈍化は依然として持続しており、1984年から1988年までの期間も横ばい状態にあることが認められた。

考察：厚生省歯科疾患実態調査によると、乳歯う蝕は1970年前後にピークを迎える後減少傾向にあるが、今回の演者らの調査によれば、減少率は80年代に入り遅減し現在に至っている。80年代のう蝕減少の足踏み状態は、今こそ実効性のあるう蝕予防対策が講じられるべきであることを示唆していると考える。